**論文執筆要項**

|  |  |
| --- | --- |
| 1. | 原稿は，論文例のテンプレートを用いてMicrosoft Wordで作成し，A4版で25枚以内とし，文と，図表，写真を適切な位置に貼り込んで，PDF形式に変換して提出する。TeXで作成した場合も，上記と同様の体裁として，PDF形式に変換して提出する。 |
| 　 |  |
| 2. | 原稿は次の要素から構成される： |
| 　 |

|  |  |
| --- | --- |
| 2.1　１ページ目： | (1)標題，(2)標題の英訳，(3)著者名，(4)著者名ローマ字，(5)所属機関名，(6)所属機関名の英訳，(7)論文種別を明記する。 |
| 2.2　２ページ目： | (1)標題，(2)和文要約（約４００字），(3)英文要約（約１５０語），(4)キーワード（５～６語）を日英両語で入れる。 |
| 2.3　以降： | (1)本文，(2)謝辞(必要に応じ)，(3)注(必要に応じ)，(3)参考文献の順に書くこと。 |

 |
|  |  |
| 3. | 記述の原則は当用漢字，現代かなづかいとする。数字は算用数字を使用する。 |
| 　 |  |
| 4. | 本文において節等の番号をつける場合には，節にあたるものは"1."，"2."，．．．のようにし，第1節の第1小節にあたるものは"1.1"のようにする。節等の番号の数字は半角とする。 |
| 　 | 　 |
| 5. | 本文中における外国人名等の固有名詞は，原綴りあるいは英語綴りを原則とする。 |
| 　 | 　 |
| 6. | 図や表は本文の適切な位置に貼りこむ。また図１，表5のように一連番号を付するとともに，必ず題を付ける。なお，付ける位置は図の場合は下に，表の場合上にする。図表番号の数字は半角とする。 |
| 　 | 　 |
| 7. | 注は出来るだけ少なくする。必要な場合，論文等の最後，参考文献の前に一括して入れ，本文中の該当箇所の右肩に1），2）のように示す。注番号の数字は半角とする。 |
| 　 | 　 |
| 8. | 文章中の数式における文字はすべてイタリック(斜体)で印刷される（ただし，sin，logなどの関数記号は直立体）。また一つ，二つ，などの数字は原則として漢数字を使う。 |
| 　 | 　 |
| 9. | 数式には一連番号を付する。数式番号の数字は半角とする。 |
| 　 | 　 |
| 10. | 謝辞が必要な場合は本文の最後，注の前に置く。 |
| 　 | 　 |
| 11. | 参考文献は，欧文・和文のものを一緒に，著作者の姓のアルファベット順によって並べる。同一著者の同年公刊の文献には，a, b, c, … をつけて区別する。参考文献の欧文書式の詳細はPublication Manual of the American Psychological Association (Seventh edition, 2020)のスタイルに従うものとする。参考文献の和文書式の記述形式は，雑誌の場合，著者，発表年，標題，雑誌名，巻数，論文所在ページ，DOIの順とし，単行本の場合，著者，発行年，書名，発行所，DOIの順とする。 |
| 　 | 　 |
| 12. | 参考文献の本文中での引用について，初出は全員の名前，その後，4人以上の場合は「．．．ほか」（和文）あるいは"．．．et al."（欧文）をつける。例として次のようにする： |
| 　 |

|  |  |
| --- | --- |
| （例） | Cronbach (1951) は　．．．.Lord and Novick (1968) によると　．．．(APA基準では文中'＆'ではなく'and'を用いる)池田 (1992)　は　．．．山田太郎・高橋花子・佐藤一郎・鈴木かおり （2003）は．．．（初出）　山田ほか （2003）は．．．（2回目以降）　．．．　といっている　(Cronbach，1951)。．．．　といっている　(Lord　＆　Novick, 1968)。．．．　といっている　(池田, １992)。  |

 |
| 　 | 　 |
| 13. | 原稿は，この「論文執筆要項」に従って執筆し，オンライン投稿審査システムから日本テスト学会編集出版委員会に投稿する。オンライン投稿審査システムのURLは学会のホームページに掲載される。 |
|  |  |
| 14. | 投稿する際，投稿者は，オンライン投稿審査システム上で求められる投稿情報を入力すること。 |

（2022年10月12日現在）